

### 1. 授業科目と単位：

メディア文化論 (○)講義 ( )演習 ( )実習 2 単位

### 2. 履修対象者：

(○)D1, (○) D2, (○)D3, (○)D4, ( )D5: (○)文化科学研究科, (○)総研大の全研究科, その他 (総研大以外からの聴講参加も歓迎する)

### 3. 授業担当教員：広瀬 洋子

#### 担当教員との連絡 (e-mail、電話、FAX、研究室)：

質問は e-mail か e-mail で調整した時間の面談を歓迎する。(hirose@nime.ac.jp、電話 043-298-3391、FAX 043-298-3243、メディア教育開発センター 研究棟 5 1 4 号室)

### 4. 授業実施期日時間：

授業は毎週定期的実施するのではなく、受講生諸君と日程調整をした上で(原則金曜日)、レクチャー、輪講、学生によるプレゼンテーションと討議など、多様な形式をとる。90 分 x15 回分の時間に相当させる。

### 5. 授業実施場所：

メディア教育開発センター研究棟 8 階、学生室セミナールーム

### 6. 履修条件、受講方法：

メディア文化論は、とくに障害者や女性、マイノリティーのメディア活用や日々変化する制度に文化・歴史的な光をあてる。国際的な視野から見た人権問題や社会制度など、文化・歴史的な社会背景についても洞察が求められる。研究・調査、インタビューなどについては文化人類学的手法を使うので、社会学・文化人類学的知識を備えておくことが望ましい。

### 7. 授業内容の概要：

本メディア文化論は、文化とメディアの相互作用について、社会・文化・歴史的視点からの洞察を行う研究である。とくに、メディア技術の進展によって、それまでは社会のメインストリームから遠いところにあった障害者や女性の社会参画の広がりや文化的変容といったテーマをグローバル化の進む社会と関連づけて指導している。米国の公民権運動とマイノリティ運動の軌跡、障害のある学生や教員への支援のグローバルスタンダードを目指すEUの試みなど具体的事例についても学習する。授業の受講者が博士課程の院生であることから、受講者の研究にとって関連があるテーマを積極的に取り入れて授業をすすめている。

このワークショップは、英語および英語以外の専門領域を持つ大学教員が、メディア教材を活用しながら英語で自分の関心分野について授業できることを目標としている。

今回は人文社会系の授業に焦点をあてる。教材は米国 3 大ネットワークのひとつである ABC ニュースが製作したシリーズ「The Century: America's Time」を取り上げ、市販されている関連書籍、CD、ビデオを活用する。参加者はその中から、各自の関心に合わせて歴史、社会、文化、政治などのテーマを選び、コース・デザインの立案・作成およびプレゼンテーション方法を講師とともに作り上げていく。そのプロセスの中で、自文化中心主義を超えたメディアリテラシーの視点の獲得や、英語による授業の進め方等も研修する。

## 8. 授業の達成目標：

1. メディア文化を理解するにあたって、当該社会の文化・歴史・制度などが深くかかわっていることを理解すること。その意味で文化・社会に対する洞察力を身につける。
2. メディア文化がもたらすマイノリティの新しい動きを世界的視野から理解すること。
3. メディア文化の今後の課題について、自分なりの問題意識を持てるようになること。

## 9. 授業計画：

90分 x 15回分の授業として。

- (1) メディア文化論（1）：文化とは何か。
- (2) メディア文化論（2）：異文化を記述すること
- (3) それぞれの角度から見た20世紀の歴史ドキュメンタリー（1）
- (4) それぞれの角度から見た20世紀の歴史ドキュメンタリー（2）
- (5) ディスカッション：メディアによる異文化を記述する作法
- (6) メディア文化の光と影：アジアの女性の視点から
- (6) NIME教材制作の現場から「米国発 高等教育のバリアフリーを目指して」
- (7) 米国の高等教育における障害者支援の変遷と現在
- (8) 文化の記述：受講者によるプレゼンテーション
- (9) 文化の記述：受講者によるプレゼンテーションの評価
- (10) EUの目指す知識経済とメディア学習社会
- (11) メディアを活用したグローバルスタンダード
- (12) マイノリティーにとってのインターネット
- (13) 実習：インターネットコミュニティのもたらしたもの
- (14) 多様な文化、多様な人々が共生していくためのメディア文化とは
- (15) ディスカッションと総括

## 10. 使用参考書、参考文献：

ABCニュースビデオ「The Century: America's Time」

The Century, Peter Jennings & Todd Brewster, Doubleday, 1998

<http://ship.nime.ac.jp/~disable/>

<http://ship.nime.ac.jp/~hirose/index.html>

メディア教育開発センタービデオ教材

『USA発 高等教育のバリアフリー』 制作 広瀬洋子

日本版『高等教育のバリアフリーを目指して』 制作 広瀬洋子  
綾部恒夫、2003 「文化人類学のフロンティア」ミネルバ書房  
その他

## 11. 単位取得要件と成績評価基準：

毎回の講義内容、あるいは討議内容に関して、毎回レポートの提出を求め評価を行う。

## 12. その他のコメント

特になし。